

あら川の桃に秘められた 熱い想いとプライド

6月中旬から夏にかけて、紀の川左岸の小さい町が甘い香りに包まれる。そこは全国的にも有名な桃のブランド「あら川の桃」の生まれ故郷・紀の川市桃山町。当地の桃栽培の歴史は古く、1782年に桃山町段新田の村垣弥惣八が始めたという記録が残されており、日本で最も古い栽培記録ともいわれている。ちなみに「あら川」とは、荒川または安楽川という当地の古い地名を意味する。気候が温暖で地質的にも水はけが良く、桃の栽培に適していた「あら川」地域は、全国5位、西日本最大の桃の産地である和歌山県において、500戸ほどの桃農家が密集する一大産地に成長した。

果汁たっぷりで瑞々しく、香りも甘みも濃厚な「あら川の桃」。その美味しさの秘密は、桃の栽培に適した地質や気候だけではない。摘蕾・摘花や摘果、果実への袋掛けなど先人たちの様々な努力と技術も重要な要素である。さらにPR活動の重要性に気付き、1994年「あらかわの桃」、あら川の桃の商標登録を行った。当時、産地や農産物の名称が登録された前例がなく、取得には4～5年を要したが、登録されたことで「あら川で作られた桃」の認知度と市場価値は上昇。桃農家は、ブランドに対するプライドと責任感を背負うようになり、より上質な桃を栽培するようになった。「あら川の

桃」というブランドは、先人たちが守ってきた宝です。だからこそ「美味しい桃を作らなければならない」という責任感是非常に大きいです」と語るのは、丸駒農園の稲垣吉一さん。一軒の農家の桃が悪いだけで「あら川」ブランド全体の評価が下がる。だからこそプライドをかけて手間を惜しまない。「収穫時期が近づく、雨ひとつ風ひとつが気になります。雨に濡れると変色する品種もあり、実についた水滴を拭くことも。ブランドを守ることは大変ですが、美味しかったよという一言を聞くだけで報われます」。ブランドという地域の「宝」を守る生産者のプライドは、消費者の笑顔に支えられていた。

もう1人の
＊達人

「あら川の桃は他でつくった桃とは美味しさが違います。またこんなに桃の花を見れるところは他にはないので、ぜひ見に来て欲しい」と語るのは桃農家の数本様(やぶもとあずさ)さん。旬の短い桃を他の季節にも食べてもらいたいと、果肉のソースと果肉のものがふんだんに入った桃ミルクジェラートを自宅横のカフェで製造販売。

藤桃庵
住所／紀の川市桃山町元901 電話／0736-66-8475



桃山町が一望できる最初が峰(百合山)に立つ稲垣吉一さん(左)と母の明美さん。ここ百合山は、1869年より桃栽培のために開墾が始まった場所。

こんなにある ＊桃の種類

①はなよめ／6月中旬／玉揃えがよく高糖度であり日持ちがよい。②桃山白鳳(ももやまはくほう)／6月中旬～下旬／桃山町で見いだされた品種で、白鳳の一樹変異。満開後75日前後で収穫できる早生種。③日川白鳳(ひかわはくほう)／6月下旬～7月上旬／早生系の桃として品種的に優れ、果実は丸く果皮の色は濃い桃色で人気。④八幡白鳳(やはたはくほう)／6月下旬～7月中旬／白鳳の中から発見された枝変わり品種。果実はやや扁円形。⑤白鳳(はくほう)／7月上旬～下旬／果実は丸くて大きく、「あら川の桃」の代表的品種のひとつ。⑥清水白桃(しみずはくとう)／7月中旬～8月中旬／果実は白鳳よりも大きく「あら川の桃」の主力品種。⑦川中島白桃(かわなかじまはくとう)／7月下旬～8月中旬／盛夏に収穫でき、盆需要品種として人気。
※品種名／収穫時期／特徴
※桃山町で栽培されている主な種類



①紀の川左岸に広がる「桃源郷」。3月下旬から4月上旬にかけて桃の花が満開となり、その景観は「ひと目十萬本」といわれ、桃山町の大切な観光資源でもある。②百合山の麓に建つ大きな桃の看板。③桃の花が咲く頃になると、摘花作業で桃農家は忙しくなり、農家は花見どころではないという。写真中央は若かりし頃の明美さん。④各農家は桃のパッケージにも独自の趣向を凝らす。上手く箱詰めできた時は、桃が可愛く見えて手放したくなることもあるという。

丸駒農園(稲垣吉一)
住所／紀の川市桃山町元77-2 電話／0736-66-0960

